

行政と復興に関わるNPO等多様な主体の活動の
理解・連携連続交流会

**行政とNPO等多様な
主体との協働の実際
について**

特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる
大久保 朝江

認定NPO法人杜の伝言板ゆるるの事業概要

情報発信支援

- 月刊杜の伝言板ゆるるの発行
- みやぎNPO情報ネットの運営

NPO理解促進 担い手育成

- 高校生の夏ボラ体験プログラム
- NPO夜学

NPOの組織基盤強化の支援

- マネジメント講座・専門相談
- 会計サポーター派遣

資金の提供

- 真如苑「居場所づくり助成」

場の提供

- みやぎNPOプラザ(指定管理者)

中間支援組織 立上げ支援

- NPO法人とめ市民活動フォーラム
- NPO法人パートナーシップなとり

★共助社会づくり

内閣府 共助社会づくり懇談会の報告書
『共助社会づくりの推進について

～新たな「つながり」の構築を目指して～』

(平成27年3月)から

個人の多様な価値観や意思が尊重されながら、新たな『つながり』が構築され、全員で作りに上げていく社会

⇒ 多様な団体との連携・協働

課題解決の担い手として

一人ひとりが個性豊かに暮らせるような、
活力と多様性のある地域社会の実現

それぞれの立場で行動

行政 NPO
企業 学校
市民

改善に貢献する

生活環境の向上

協働と連携

協働とは、

複数の団体が、同じプロジェクトを協力しながら進めて行くことで、**立場も対等**。

連携とは、

個々のグループがそれぞれの特徴をいかし、協力して物事をよくしていく。

なぜ行政はNPOと協働するのか

「市民の共感を巻き起こし参加を募る」そのような「市民参加型」「市民自治型」の事業を創造できること。

事業を通じて、NPOが市民の主体性を育み発揮する場となり、

これまでの「行政お任せ社会」を「市民が自治する社会」に変えてゆくことができる。

公益の主たる担い手の行政は

- 公益を担う市民ベースのNPOを尊重し、育て、共に歩むことで、市民の生活環境が向上していく。
- NPOで活動している市民は、義務でしているのではなく、必要と感じた人々の自発によって行動している。
- 行政のやるべきことのお手伝いのために立ち上げたわけではないのだから。

を理解する。

協働の形

- 補助事業⇒NPOが実施する事業に行政が資金を提供し、困っている市民を支援
- 事業共催⇒共に資源を提供し、役割と権利を明らかにし、共に有する
- 業務委託⇒NPOが専門性を発揮してより有効な成果が期待されるからこそその委託権利は委託者側
- 指定管理者⇒協定書を交わし、指定管理者としての責任と権限もある

協働の事例

- **NPO法人アスイク**

行政と協働することで、生活困窮家庭の親や子どもたちに情報が届くようになった

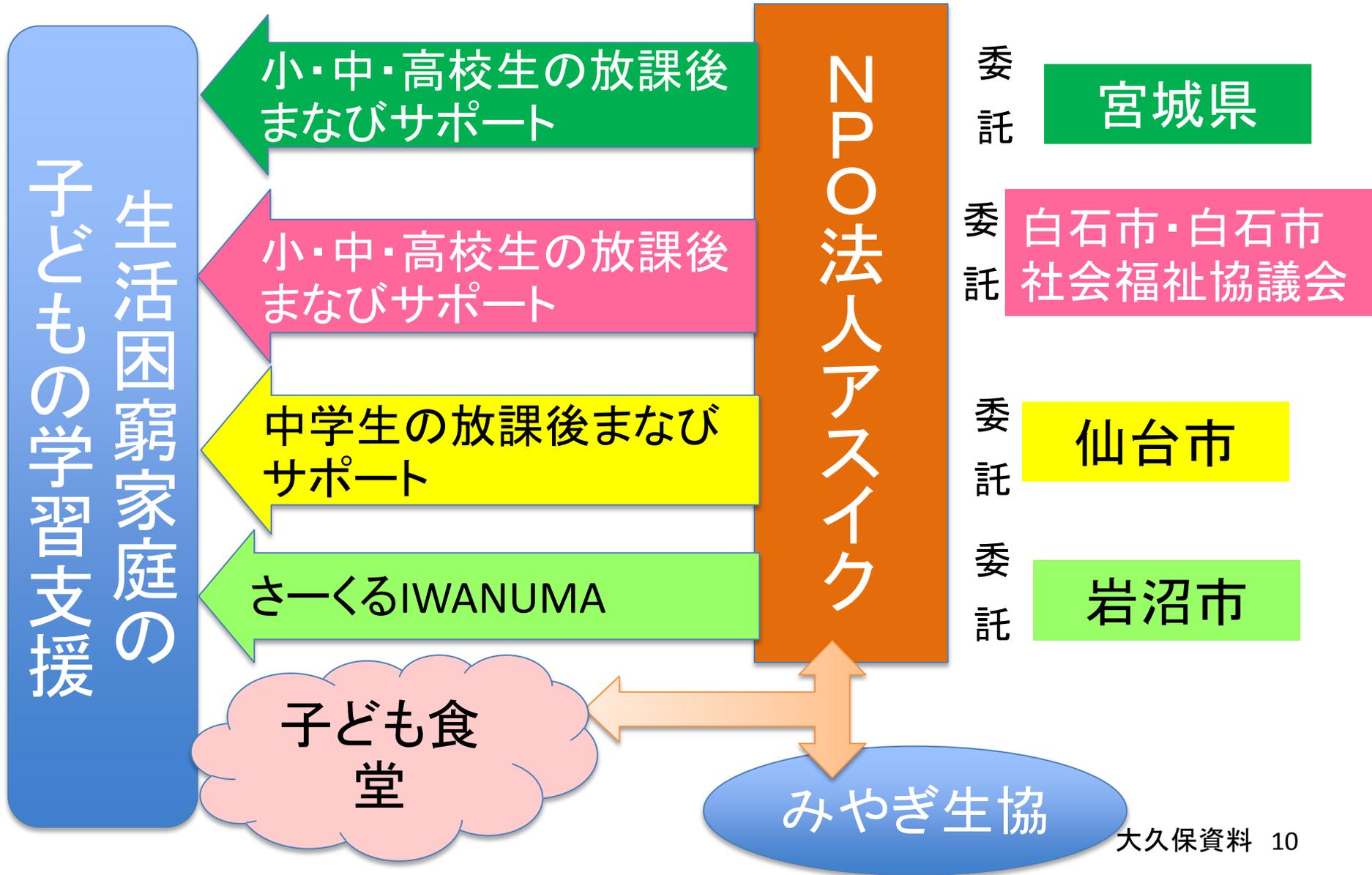
- **NPO法人中部プロボノセンター**

働く人々に短期のボランティア体験のチャンスを作ることで、NPO活動の理解を進めた。

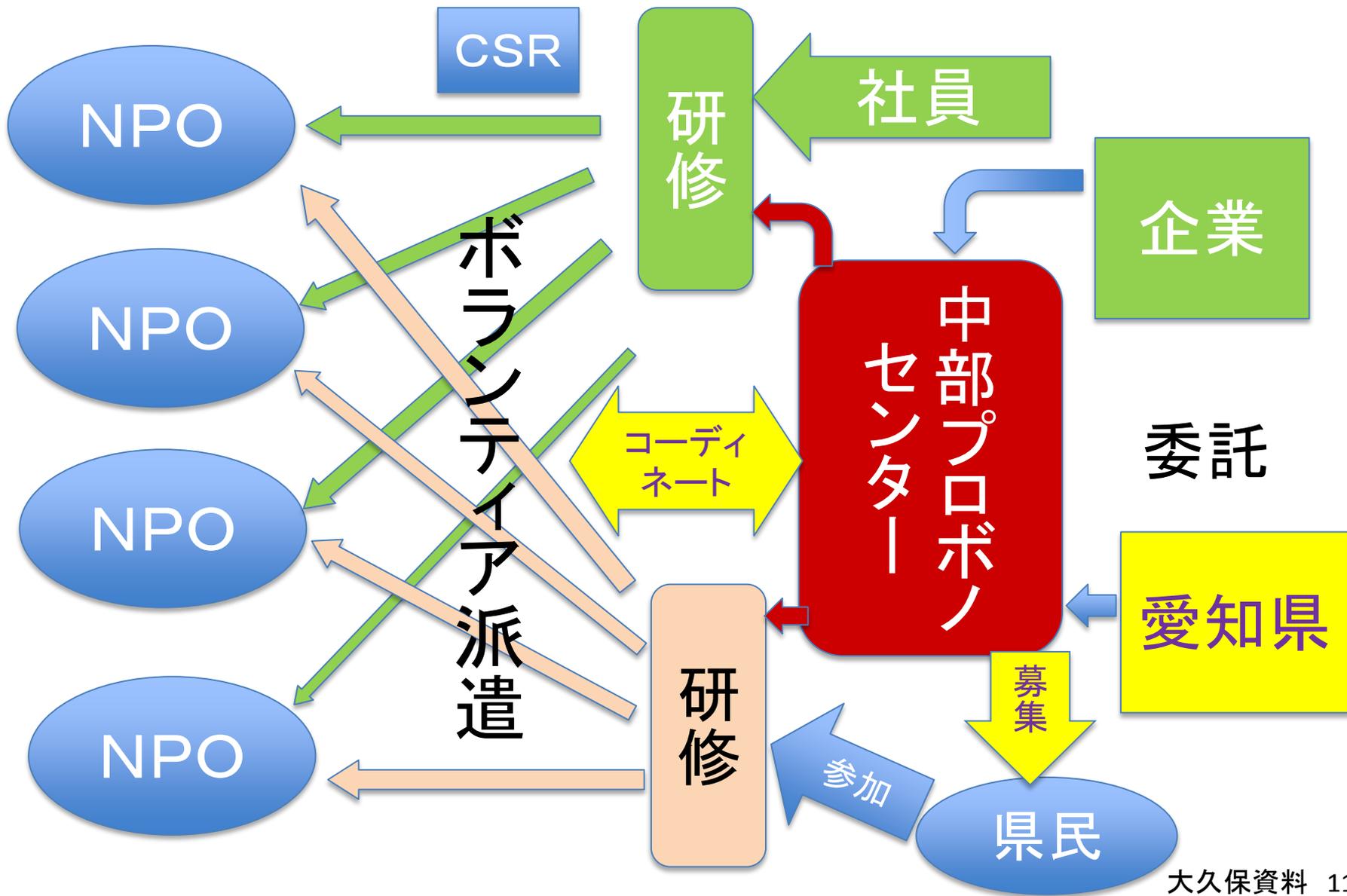
- **認定NPO法人杜の伝言板ゆるる**

行政からの告知依頼は見る確率が高い。高校生のボランティア体験をしてくれる。

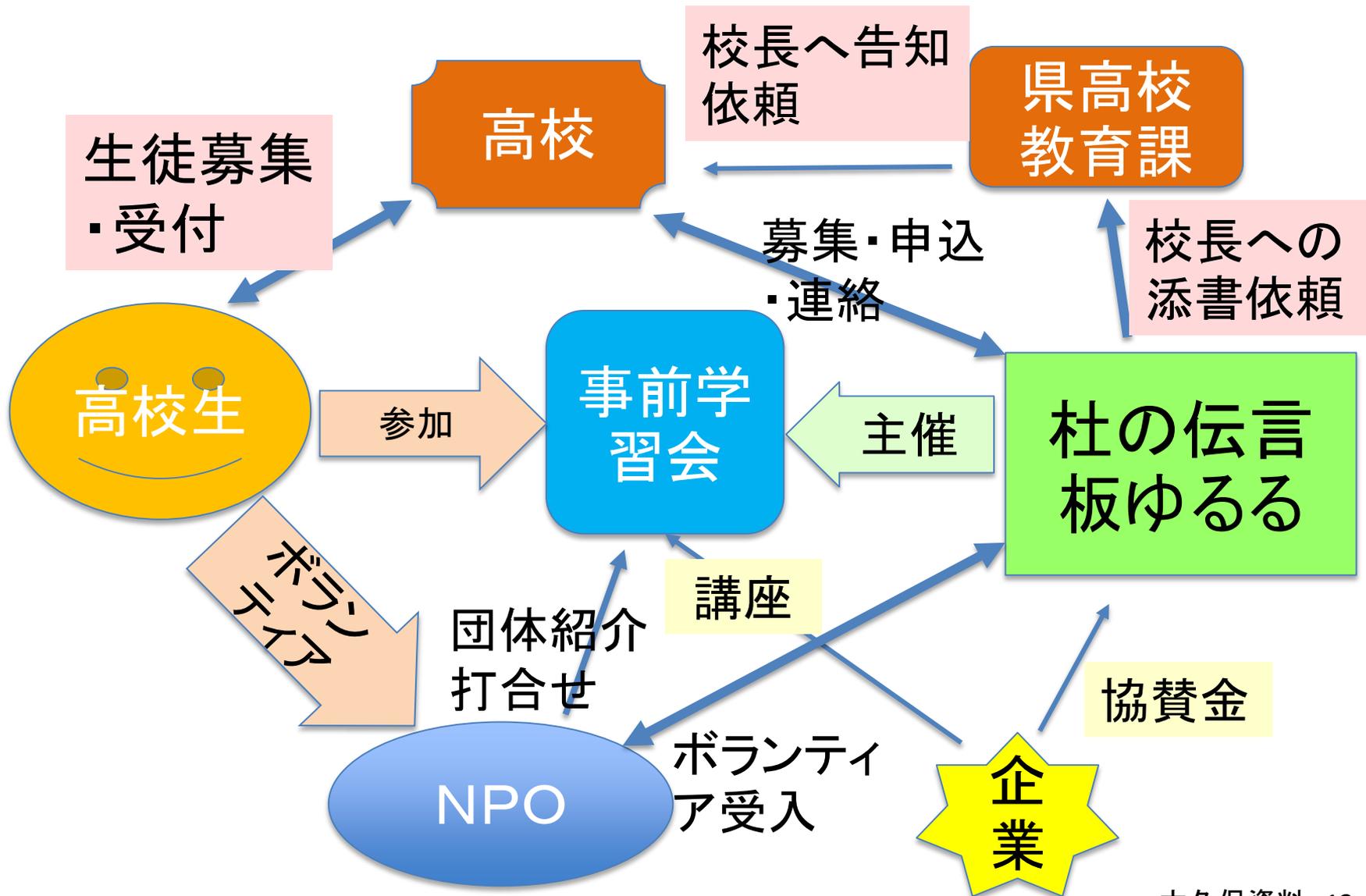
NPO法人アスイク



NPO法人中部プロボノセンター



認定NPO法人杜の伝言板ゆるる



行政とNPOが協働するメリット

行政

NPO

市民の課題解決により有効な手段で最大効果を発揮したい。

市民のニーズをよく把握し、画一的ではない柔軟な方法で実施する

双方の特色を出し合い、最も市民にとっていい方法を決定し、**良い結果が期待**できる

そのためには・・・

⇒協働の相手を見つける

- その分野で継続的に活動していて協働できる相手を日常的にリサーチし、同じNPOとのなれ合いや癒着を防ぐためにも、企画で競える機会を保障する
- 選考審査には民間の目を
- NPOはより専門性を高める

協働の望ましいあり方

以下を共有する

- 目的を確認し、目標を定めて共有する
- 実施形態の話し合い
 - ニーズの確認で始まり、その課題解決への成果目標そこに至るまでの実施方法、双方の役割あり方など
- 中間評価の確認
- 問題事項への対処

終了後、双方別々に評価し、それを相互確認する「場」の設定が重要

協働にあたって気をつけたいこと

- 行政からの一方的な指示や決定は避け、信頼関係のもとに相互を尊重し、対等に提案・相互評価を取り入れていく。
- NPOの提案は必須

NPOと行政の協働で

地域の困りごとが、地域を支える**市民力**によって、解決に向けて動き出す
これが行政と共に支える公益の在り方
地域の皆さんのために、NPOを理解し、
市民と共に一緒に取組みましょう！

ご清聴ありがとうございました。